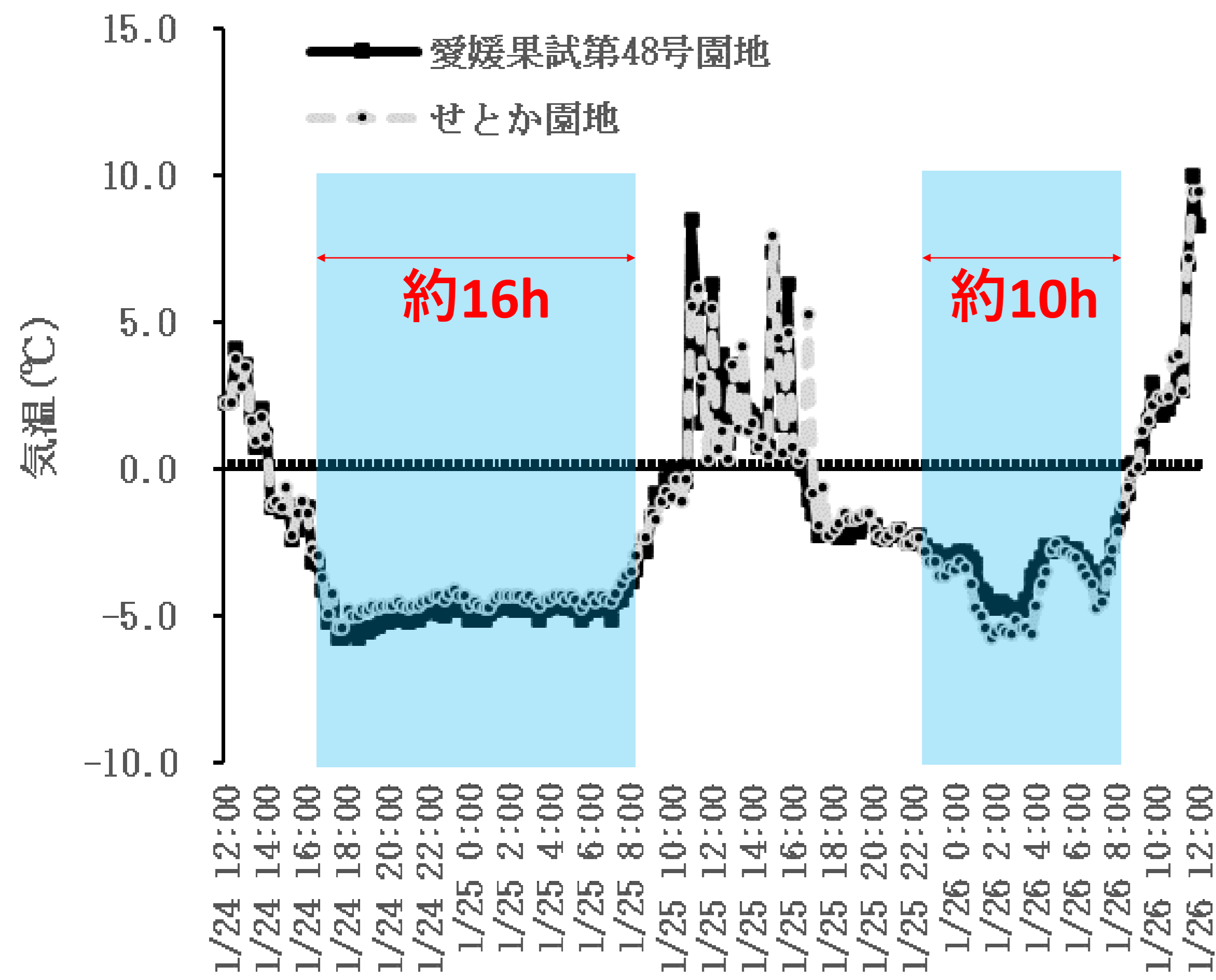


‘愛媛果試第48号’および‘せとか’の果実凍害の比較

愛媛果試第48号(紅プリンセス)の凍害症状は外観からは判別がつきにくく、寒波約40日後あたりから果肉のす上がりが発生する。食味については、せとかの様な強い苦みの発生は少ないが、異味が発生し、時間の経過とともに強くなる。

低温遭遇時間



果樹研究センターでは、令和5年1月24～25日にかけて、-3℃以下の気温を合計20時間以上、最低気温-5.7℃を記録した。

‘愛媛果試第48号’と‘せとか’ 主な凍害症状を比較

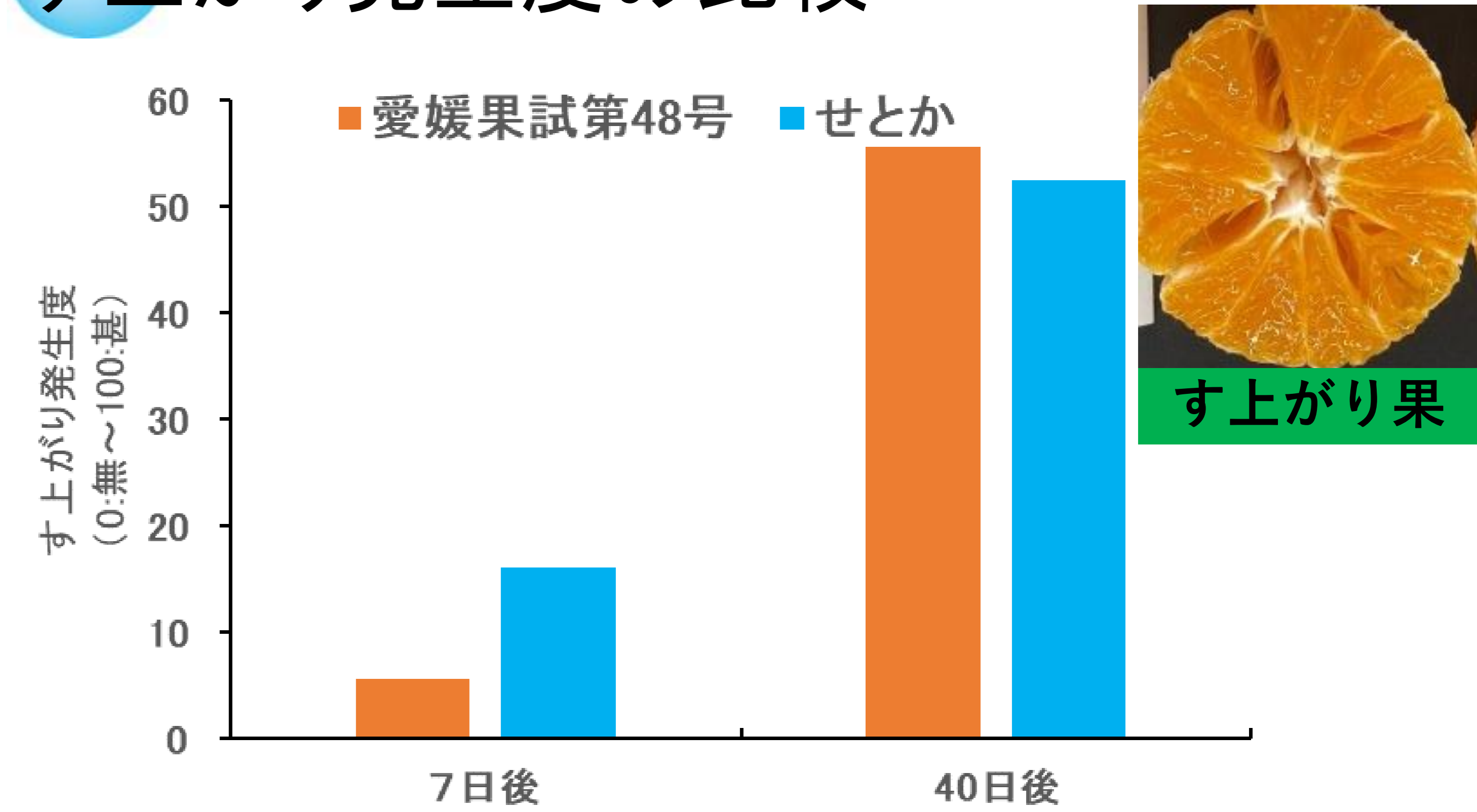
注)
 ・発生度 = $\sum (\text{発生程度果数} / \text{指数}) \times 100 / (\text{調査果数} \times 3)$
 ・寒波約7日後(1/30)、約40日後(3/6)にそれぞれの項目について調査を行った。

果皮障害の比較



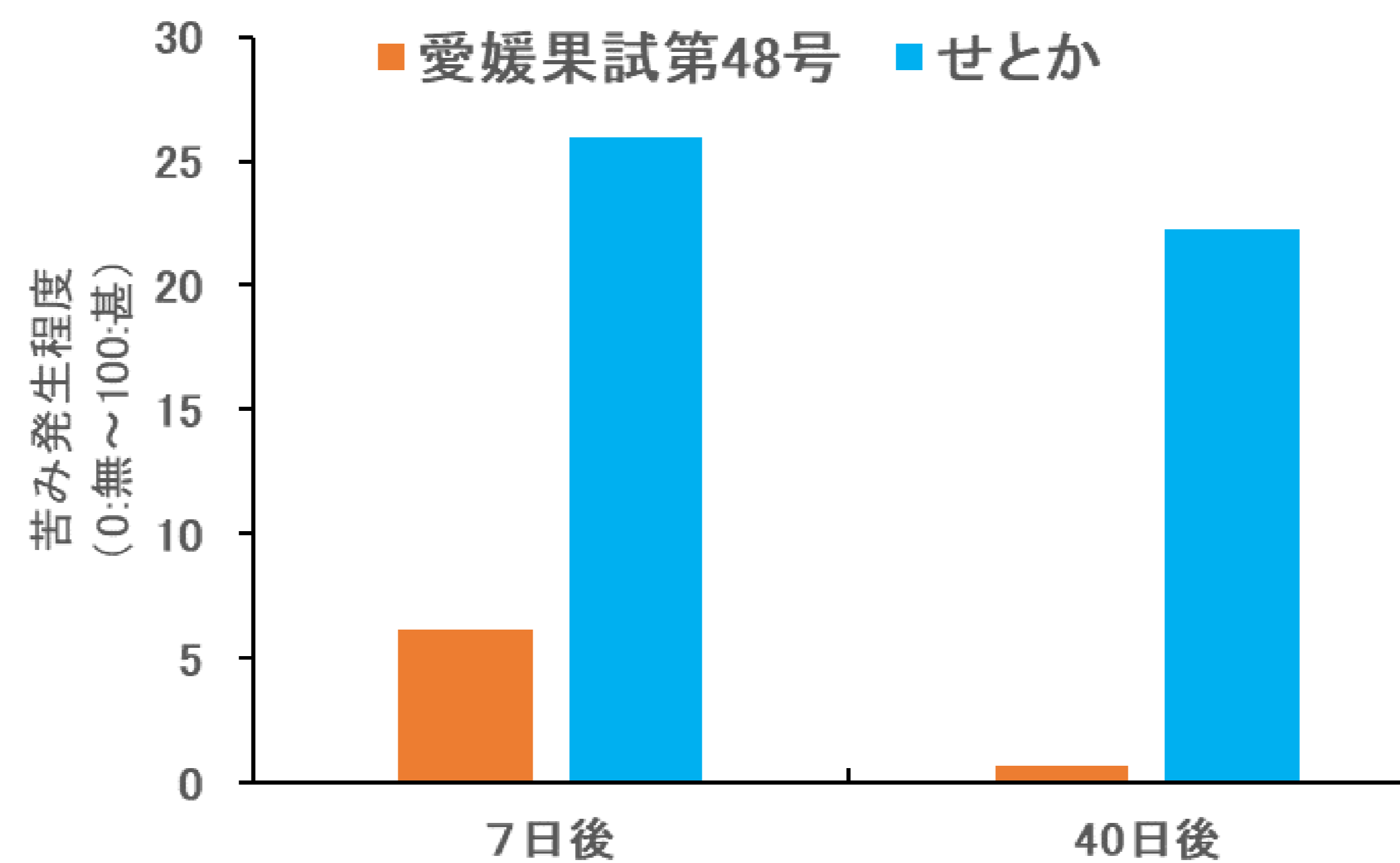
‘愛媛果試第48号’は‘せとか’に見られた果頂部の褐変症状は見られず、外観は健全であった

す上がり発生度の比較



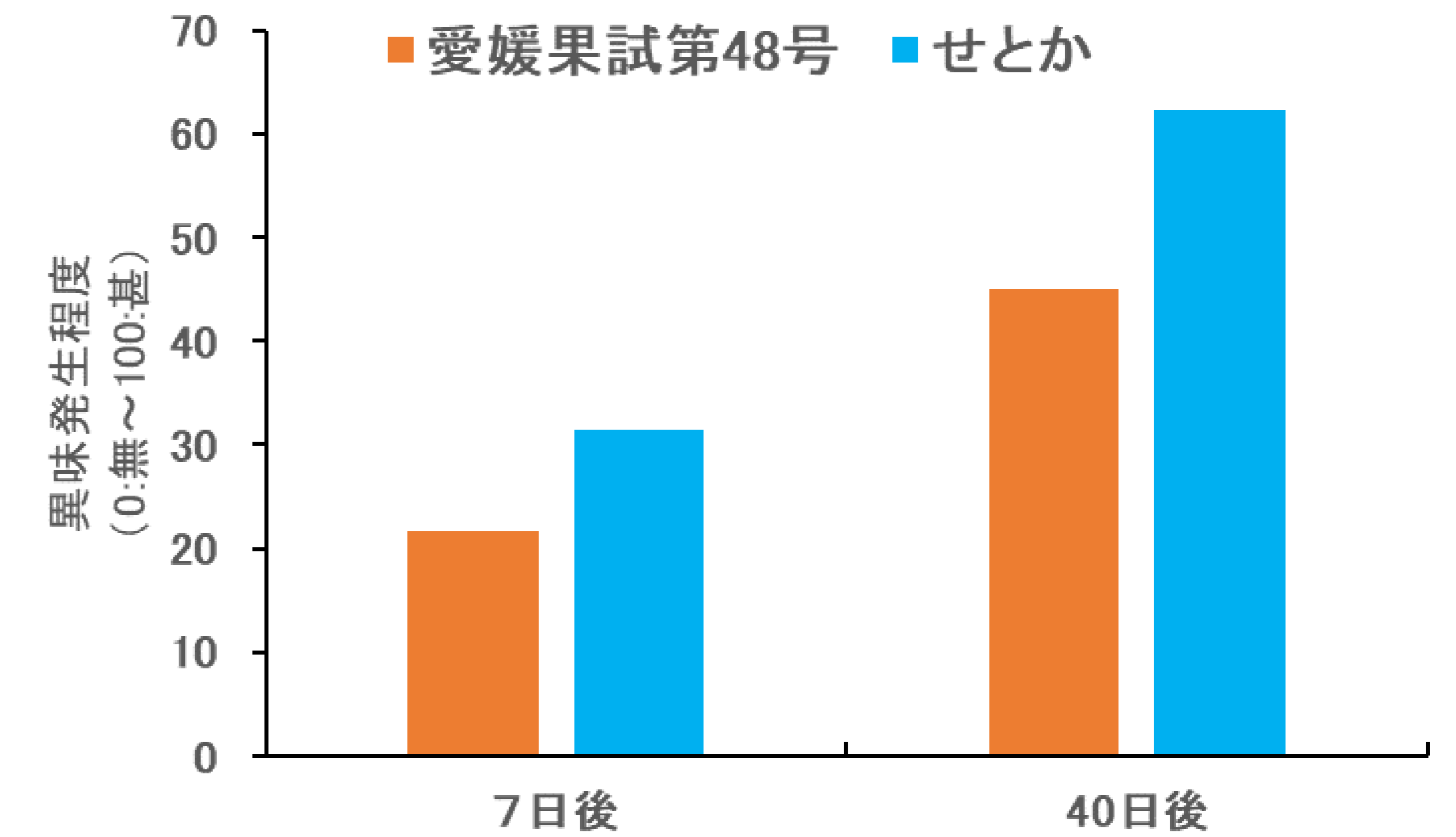
す上がりは両品種ともに発生し、時間の経過とともに症状が悪化する

苦み発生度の比較



‘せとか’では寒波約7日後から強い苦みが発生したが、‘愛媛果試第48号’は発生が少なかった

異味発生度の比較



異味は両品種ともに発生し、時間の経過とともに強くなる